

保育者を目指す新入学生が抱く幼稚園教諭像とは —保育士像との比較分析を通じて—

What's the Supposed Image of Kindergarten Teachers

by Freshmen in Teachers' Training School ? :

Through the Comparative Analysis of the Image of Nursery School Teachers

浅井 拓久也・谷口 聖

キーワード：幼稚園教諭像、保育士像との比較、幼稚園教諭養成課程、計量テキスト分析

1 問題背景と課題設定

昨今、文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教職課程部会における教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会での議論を経て、幼稚園教諭養成課程の見直しが行われた。幼稚園教諭養成課程では、教科の専門的な内容とその指導方法を一体的に学ぶために、「教科に関する科目」が「領域に関する専門的事項」へ、「教職に関する科目」の「保育内容の指導法」が「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）」へと変更され、これらを合わせて「領域及び保育内容の指導法に関する科目」が創設された。5領域の教育内容とその指導方法を一体的に学ぶことができる教育課程にすることによって、実践力や指導力のある幼稚園教諭を養成することを目指しているのである。

幼稚園教諭養成課程が見直された背景には、現代社会における子どもや子育て環境の課題に取り組むため、幼稚園教諭には高度な専門性や実践的な指導力が求められることがある。平成29年に告示された幼稚園教育要領改訂に関する審議においても、「社会状況の変化等による幼児の生活体験の不足等から、基本的な技能等が身に付いていなかったり、幼稚園教育と小学校教育との接続では、子どもや教員の交流は進んできているものの、教育課程の接続が十分であるとはいえない状況であったりするなどの課題も見られる」や「近年、国際的にも忍耐力や自己制御、自

尊心といった社会情動的スキルやいわゆる非認知的能力といったものを幼児期に身に付けることが、大人になってからの生活に大きな差を生じさせるという研究成果をはじめ、幼児期における語彙数、多様な運動経験などがその後の学力、運動能力に大きな影響を与えるという調査結果などから、「幼児教育の重要性への認識が高まっている」と指摘されている（文部科学省 2016）。

このように、幼稚園教諭としてのあるべき姿や目指すべき方向性は明確である一方で、そもそも保育者を目指して大学や短期大学に入学する学生が幼稚園教諭に対してどのようなイメージ（幼稚園教諭像）をもっているかについては十分に検討されてこなかった。幼稚園教諭像に関する先行研究を概観すると、幼稚園教諭のあるべき姿（理想論、教師論）、幼稚園教諭が学生に求める資質や能力、学生が抱く保育者像の3つに分けられる。本稿と特に関係するのは、学生が抱く保育者像である。たとえば、中村（2006）、松永他（2007）、阿部・石山（2008、2010）、高村・平野（2008）、加藤（2009）、大橋（2010）、太田（2008）、幸（2009）、小島（2012）、竹田他（2016）がある。

しかし、これらの研究では、次の3つの限界があった。まず、保育士および幼稚園教諭をあわせて保育者としていることである。これは、保育士像の抽出か保育士と幼稚園教諭をあわせて保育者像として抽出しているものが含まれる。すなわち、幼稚園教諭像だけを対象としていなかったため、幼稚園教諭像を抽出できていなかった。次に、質問紙に対する回答を整理しているため、そもそも意識していなかったものを選択したり実際に考えていることが選択肢にない場合に回答に反映されなかったりすることである。最後に、自由記述式による回答においても、回答の分類が分析者の判断によるものであったり回答を列挙しているだけであったりというように客観的な分析がされていないことである。

以上の先行研究の課題を踏まえて、本稿では、保育者を目指す学生が幼稚園教諭をどのようなものと捉えているかを明らかにする。現在抱いている幼稚園教諭像がどのようなものかを明確にすることで、幼稚園教諭のあるべき姿との差異、すなわち学生が学ぶべき課題が明確になる。指導する側の授業担当者の立場からは、これらの課題を意識して担当科目の教授を行うことで、より実効的な幼稚園教諭養成課程にすることができるであろう。また、現在、幼稚園教諭の担い手が減少している。幼稚園教諭として就職するのは、保育所保育士の約半分程度である（厚生労働省 2015）。こうした進路選択にも、学生の幼稚園教諭像が影響を及ぼしていることが考えられることから、幼稚園教諭像の実際を明らかにすることが必要である。

2 研究方法

（1）調査概要

調査対象者は、指定保育士養成施設であり幼稚園教諭養成課程を有する短期大学の1年生のうち、教育実習事前指導の受講者とした。調査は、教育実習事前指導の初回の授業開始時に実施した。130名の受講者のうち122名から回答を得た（回収率93.8%）。

調査方法は質問紙調査とし、自由記述によって回答を得た。授業内にて、本稿執筆者が質問紙を配布し、回収した。質問項目は、先行研究を参考にして次の通りとした。「幼稚園教諭には、どのような人が向いていると思いますか」、「保育士には、どのような人が向いていると思いますか」、「幼稚園教諭には、どのような人は向いていないと思いますか」、「保育士には、どのような人は向いていないと思いますか」、「幼稚園教諭として働いていくうえで必要な能力とは何だと思いますか」、「保育士として働いていくうえで必要な能力とは何だと思いますか」、「幼稚園の園長に必要な能力とは何だと思いますか」、「保育所の園長に必要な能力とは何だと思いますか」の8つの質問項目とした。

（2）分析方法

分析には、計量テキスト分析が可能なKH Coder 3を用いた。KH Coder 3では、テキストデータを単語や句に分節し、出現数、単語間の相関関係、各データに特徴的な単語を抽出することができる。また、共起ネットワーク等を抽出する際に分析者が最低出現回数やJaccard係数の閾値を設定するが、これらを除けば自動的に抽出が可能となるため、客観的な分析が可能となる。

分析は次の手順で進めた。まず、8の質問項目のうち類似するものを対にした。具体的には、「幼稚園教諭には、どのような人が向いていると思いますか」と「保育士には、どのような人が向いていると思いますか」、「幼稚園教諭には、どのような人は向いていないと思いますか」と「保育士には、どのような人は向いていないと思いますか」、「幼稚園教諭として働いていくうえで必要な能力とは何だと思いますか」と「保育士として働いていくうえで必要な能力とは何だと思いますか」、「幼稚園の園長に必要な能力とは何だと思いますか」と「保育所の園長に必要な能力とは何だと思いますか」を対にした。このように、保育士と幼稚園教諭を比較することで、学生の幼稚園教諭像をより明確に抽出できる。

次に、以下の3つの分析を行った。まず、各質問に対して頻出150語を抽出した。最低出現回数は5とした。次に、各質問項目に対する回答から特徴的な言葉を抽出した。抽出単位は文とした。これは、Jaccardの類似性測度に基づいて各質問項目に特徴的な上位10語を抽出したものである。最後に、共起ネットワークを描いた。集計単位は文とした。特徴的な言葉と共起ネットワークでは、質問項目別に分析を行うのではなく、対にした質問項目に対して行った。なぜなら、保育士に対する回答と比較することで、幼稚園教諭を語る際の言葉をいっそう明確にできるからである。こうした異なる3つの分析方法を用いるのは、分析視点や抽出過程が異なる方法を複数用いることで多面的な分析が可能となり、より正確なデータ分析が可能になると考えるからであ

る。なお、分析用データは、122名から得た自由記述の回答とした。明らかな誤字や脱字については本稿執筆者の判断で修正し分析に用いた。

(3) 倫理的配慮

受講者が質問紙に回答する前に、調査目的と内容、回答は学術研究の目的でのみ使用されること、回答した内容と教育実習事前指導の成績は無関係であること、自由意志および無記名によること、回答は途中で放棄したり提出拒否したりできること、質問紙は一定期間経過後に破棄すること等が本稿執筆者から口頭で説明された。回答の提出をもって調査対象者の同意を得たとした。

3 結果と考察

(1) 幼稚園教諭に向く人

「幼稚園教諭には、どのような人が向いていると思いますか」と「保育士には、どのような人が向いていると思いますか」の分析結果を示したのが、表 1.1、表 1.2、表 1.3、図 1 である。

表 1.1 「保育士に向く人」の抽出語と出現回数

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
人	267	待つ	8
子ども	67	責任	8
思う	66	接する	8
保育	59	多い	8
向く	35	優しい	8
協力	34	遊ぶ	8
好き	29	言う	7
明るい	27	考える	7
子供	22	色々	7
笑顔	18	信頼	7
先生	18	長い	7
周り	17	関わる	6
体力	17	見れる	6
保護	17	広い	6
気持ち	16	歳	6
コミュニケーション	13	仕事	6
意見	13	心	6
見る	12	得意	6
元気	12	物事	6
クラス	11	保育園	6
自分	11	面倒	6
出来る	11	理解	6
幼稚園	11	お世話	5
時間	10	事	5
他	10	取れる	5
協調	9	世話	5
子	9	知識	5
親	9	働く	5
一緒	8		
健康	8		

表 1.2 「幼稚園教諭に向く人」の抽出語と出現回数

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
人	266	教諭	8
思う	75	体力	8
子ども	59	優しい	8
自分	43	コミュニケーション	7
向く	35	周り	7
明るい	31	上手	7
好き	28	信頼	7
子供	24	対応	7
保育	21	活動	6
責任	19	健康	6
幼稚園	19	広い	6
クラス	18	行事	6
持つ	17	仕事	6
笑顔	17	視野	6
考える	16	親	6
ピアノ	15	多い	6
教える	15	良い	6
元気	15	一番	5
出来る	15	関係	5
保護	15	強い	5
気持ち	13	見れる	5
意見	12	言う	5
教育	11	時間	5
見る	11	自信	5
行動	11	素敵	5
担任	10	大好き	5
リーダーシップ	9	短い	5
先生	9	物事	5
得意	9		
力	9		

表 1.3 「保育士／幼稚園教諭に向く人」の特徴語

保育士		幼稚園教諭	
子ども	. 269	自分	. 243
保育	. 261	明るい	. 186
協力	. 244	責任	. 134
好き	. 155	子供	. 119
体力	. 120	幼稚園	. 118
保護	. 116	考える	. 106
先生	. 107	持つ	. 106
周り	. 106	教える	. 102
気持ち	. 103	クラス	. 097
コミュニケーション	. 093	元気	. 090

図 1

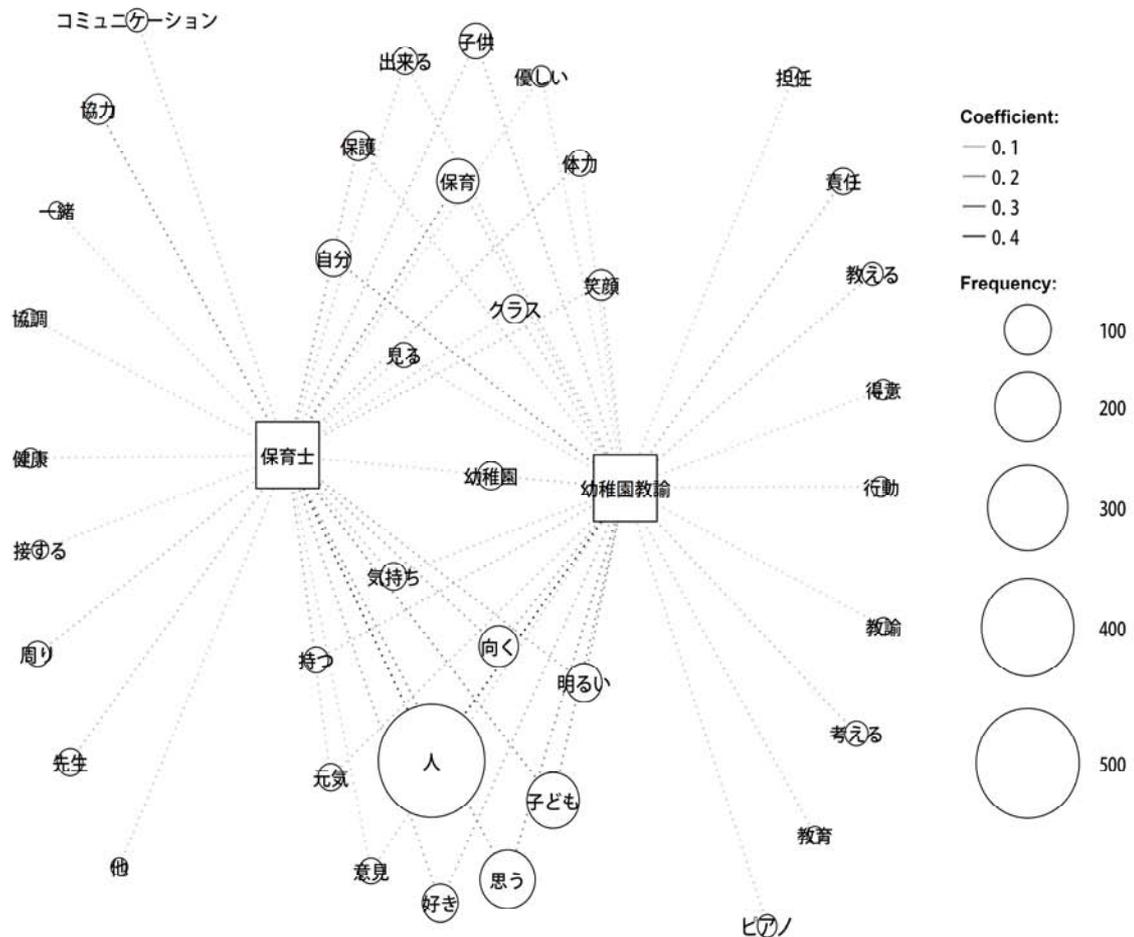


表 1.3 から、幼稚園教諭に向いている人の特徴として、「自分」、「明るい」、「責任」、「クラス」があることがわかる。頻出語をまとめた表 1.2 から、これらの言葉は出現回数が多いことがわかる。「自分」は、自由記述では「自分でまとめたり作業するのが好きな人」、「自分自身で責任を持ちクラスの生活計画などを計画して子どもたちをクラスの担任としてまとめられる人が向いている」、「自分の考えを強く持っていて、自分のしたい保育の仕方やプランがある人が向いていると思う」とあった。「明るい」や「責任」は「責任を持って行動できる人。明るい人。体力のある人」、「明るい人、優しい人、責任感のある人」とあった。「クラス」は「一人でクラスをまとめることのできる人、責任感のある人」、「行事が好きな人や、自分のクラス・空間をつくっていくのが好きな人。教育的な面でも指導できる人」とあった。

新入学生にとって、幼稚園教諭は自分一人で責任を負うというイメージであることがわかる。これは、幼稚園のクラス運営や担任制が背景にあると思われる。図 1 の共起ネットワークでも、「担任」という言葉は幼稚園教諭とだけ共起していた。一方、幼稚園教諭が一人で責任を負う（一人の責任が重い）というイメージであるのに対して、表 1.3 や図 1 から保育士は「協力」や「協

調」、「一緒」というイメージであることがわかる。自由記述でも、「体力があり、人と製作することが好きで、みんなと協力することができる人」、「明るく、体力があり、視野が広い人。協調性がある人」、「保育士に合う人は自分だけでは物事をキツパリと決められない人が向いていると思います。理由は自分だけの考えだと不安になるから物事を決められないと思うからです。そういう人はほかの保育士と一緒に協力して話し合いを行ったりして物事を決めていけば上手くいくと思います」とあった。

また、「明るい」は幼稚園教諭に向く人に特徴的な言葉として抽出されていたが、表 1.1 や図 1 から保育士とも共起していることがわかる。明るさや笑顔は幼稚園教諭だけではなく、保育士にも必要と考えられているのである。この点は、山根（2010）や加藤（2009）による先行研究の結果と同様であった。山根は、保育者志望の学生が「だれに対しても笑顔で明るくかかわる先生」を理想の保育者像としてもっていることを明らかにしている。加藤も、希望する保育者像として、教育力や指導力がある保育者より笑顔がある保育者を挙げる学生が最も多いことを明らかにしている。

（2）幼稚園教諭に向かない人

「幼稚園教諭には、どのような人は向いていないと思いますか」と「保育士には、どのような人は向いていないと思いますか」の分析結果を示したのが、表 2.1、表 2.2、表 2.3、図 2 である。

表 2.1 「保育士に向かない人」の抽出語と出現回数

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
人	230	小さい	6
思う	47	親	6
子ども	39	長い	6
苦手	35	関わる	5
向く	31	寄り添える	5
保育	26	協調	5
子供	22	仕事	5
協力	19	出来る	5
周り	16	中心	5
自分	15	無い	5
嫌い	14		
好き	12		
先生	12		
意見	10		
クラス	9		
気持ち	9		
考える	9		
保護	9		
子	8		
幼稚園	8		
コミュニケーション	7		
強い	7		
他	7		
体力	7		
乳児	7		
嫌	6		
見る	6		
行動	6		
時間	6		
自己	6		

表 2.2 「幼稚園教諭に向かない人」の抽出語と出現回数

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
人	235	関わる	5
思う	55	仕事	5
苦手	36	持てる	5
子ども	32	笑顔	5
向く	31	親	5
子供	29	人前	5
自分	15	全体	5
嫌い	14	不安	5
幼稚園	13	話す	5
クラス	12		
考える	11		
先生	11		
ピアノ	10		
気持ち	10		
好き	10		
出来る	10		
保護	10		
責任	9		
見る	8		
コミュニケーション	7		
意見	7		
協力	7		
教諭	7		
周り	7		
教える	6		
行動	6		
持つ	6		
取れる	6		
担任	6		
物事	6		

表 2.3 「保育士／幼稚園教諭に向かない人」の特徴語

保育士		幼稚園教諭	
子ども	. 208	人	. 486
苦手	. 160	思う	. 222
保育	. 159	向く	. 158
協力	. 135	子供	. 140
周り	. 114	自分	. 101
嫌い	. 089	幼稚園教諭	. 078
好き	. 076	ピアノ	. 075
意見	. 064	考える	. 071
子	. 052	クラス	. 070
強い	. 052	気持ち	. 070

図 2

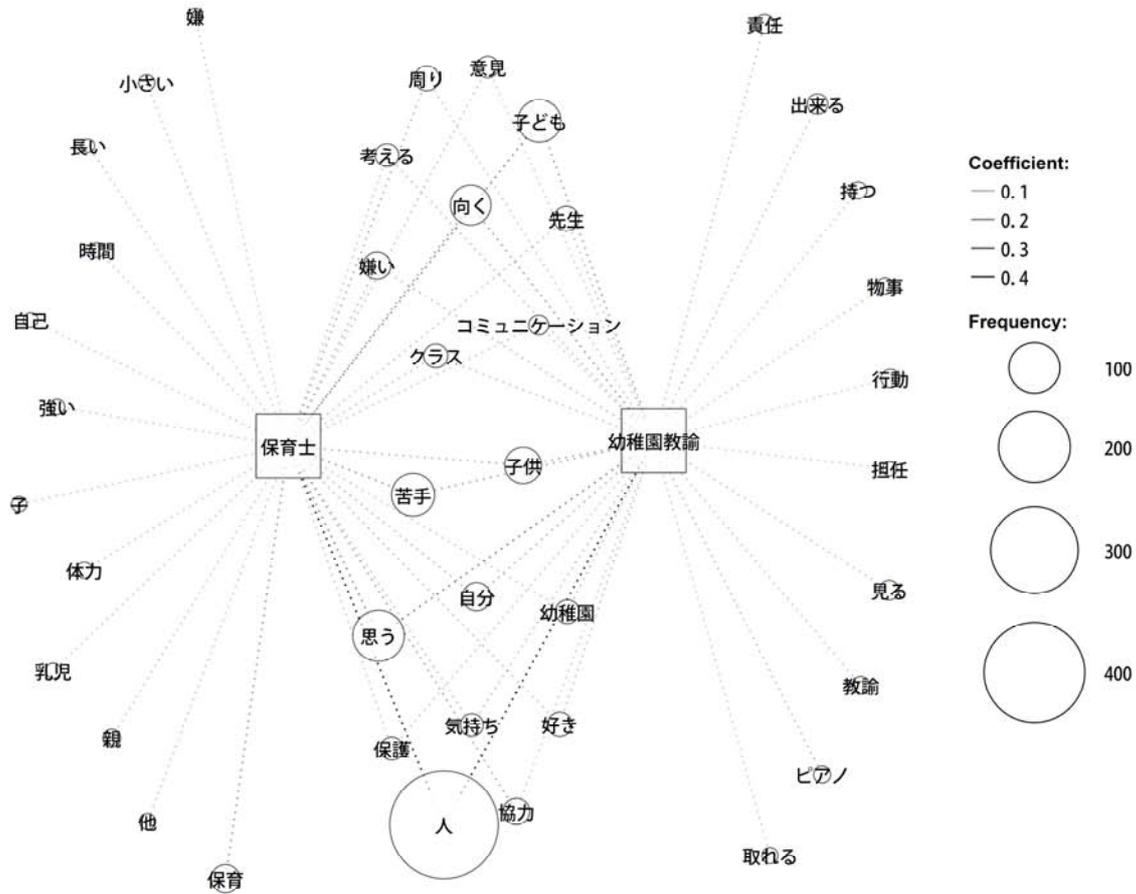


表 2.3 から、幼稚園教諭に向いていない人の特徴として、「子ども」、「ピアノ」、「クラス」があることがわかる。頻出語をまとめた表 2.2 から、これらの言葉は出現回数が多いことがわかる。

「子ども」は、自由記述では「子どもが嫌いな人」、「信頼されなく子どもに寄り添えることができない保育者」、「子どもが好きじゃない人、子どものためになにかをできない人」とあった。「ピアノ」は「ピアノが弾けない、子どもたちを責任を持って教育を行うことが出来ず、メンタルが弱くて不健康な人」、「子どもが嫌いな人、想像力があまりない人、ピアノがあまり得意ではない人です」とあった。「クラス」は「幼稚園では 1 クラスに対して 1 人の先生が付いていて 1 年目の先生でも担任を持たされることがあるので 1 人で行動できない人は向いていないと思う」、「クラスを一人で受け持つ責任感がない人、笑顔がない人」とあった。

幼稚園教諭に向かない人は、幼稚園教諭に向く人の裏返しであることがわかる。クラス運営や担任としての責任を果たせない人という記述は、先に見た幼稚園教諭として向く人の裏返しである。また、幼稚園教諭のイメージに伴うことが多いピアノについても、ピアノが苦手な人という記述があった。一方で、表 2.1 や図 2 から幼稚園教諭には見られない保育士に特有の言葉として、「乳児」、「親」があることがわかる。「乳児」は「乳児が苦手な人」、「1 人で何かをやるのが好き

で誰かとやるのが苦手な人や乳児は見たくないという人」とあった。「親」は「子どもの気持ちを汲み取らない人や、親や、子に関心がない人」、「他の先生と協力せずに、自分のクラスを持って自分の空間を作りたい人。低年齢の子が苦手な人。働いている親の気持ちに寄り添えない人」とあった。

確かに、保育所では乳児に対する保育を行うことから、保育士に向かない理由に乳児に関する言葉が出現することは理解できないことではない。しかし、こうしたイメージが、乳児が苦手だから保育士には向かない、だから幼稚園教諭を志望するという安易な発想につながる危険も含んでいるように思われる。昨今の幼稚園では預かり保育等で乳児に対する保育を提供することもある。また、そもそも子どもの育ちは連続しており、乳児に対する興味や関心は幼児を理解するためにも必要であることからすれば保育士とだけ乳児が結びついている保育士像や幼稚園教諭像は好ましくないであろう。

なお、表 2.3 から、幼稚園教諭に向かない人について子どもが好きではない人が特徴的な言葉であった。しかし、図 2 からはこれらは保育士に対するイメージでもあることがわかる。図 2 からは、幼稚園教諭と保育士に共通する点として、周りが見れない人、コミュニケーションがとれない人、子どもが苦手な人、子どもが嫌いな人があることがわかる。

(3) 幼稚園教諭として必要な能力

「幼稚園教諭として働いていくうえで必要な能力とは何だと思いますか」と「保育士として働いていくうえで必要な能力とは何だと思いますか」の分析結果を示したのが、表 3.1、表 3.2、表 3.3、図 3 である。

表 3.1 「保育士に必要な能力」の抽出語と出現回数

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
能力	72	明るい	5
思う	47	幼稚園	5
子ども	37		
必要	34		
人	32		
保育	30		
コミュニケーション	29		
協力	21		
力	20		
体力	17		
協調	16		
見る	15		
保護	15		
知識	13		
子供	12		
先生	12		
周り	10		
他	9		
大切	8		
考える	7		
笑顔	7		
親	7		
気持ち	6		
子	6		
専門	6		
働く	6		
援助	5		
強い	5		
対応	5		
年齢	5		

表 3.2 「幼稚園教諭に必要な能力」の抽出語と出現回数

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
能力	68	保育	7
思う	53	持つ	6
子ども	47	楽しむ	5
必要	36	技術	5
人	33	教える	5
力	26	指導	5
コミュニケーション	22	笑顔	5
見る	17	心	5
ピアノ	16	働く	5
知識	16	判断	5
子供	13		
自分	13		
周り	13		
幼稚園	13		
出来る	12		
責任	12		
クラス	11		
教諭	9		
保護	9		
リーダーシップ	8		
強い	8		
教育	8		
行動	8		
体力	8		
気持ち	7		
考える	7		
子	7		
専門	7		
対応	7		
大切	7		

表 3.3 「保育士／幼稚園教諭に必要な能力」の特徴語

保育士		幼稚園教諭	
能力	. 280	思う	. 221
保育士	. 155	子ども	. 177
コミュニケーション	. 148	必要	. 164
協力	. 114	人	. 150
体力	. 093	力	. 110
協調	. 091	見る	. 086
保護	. 077	知識	. 082
先生	. 062	ピアノ	. 081
他	. 052	子供	. 068
大切	. 044	周り	. 068

図 3

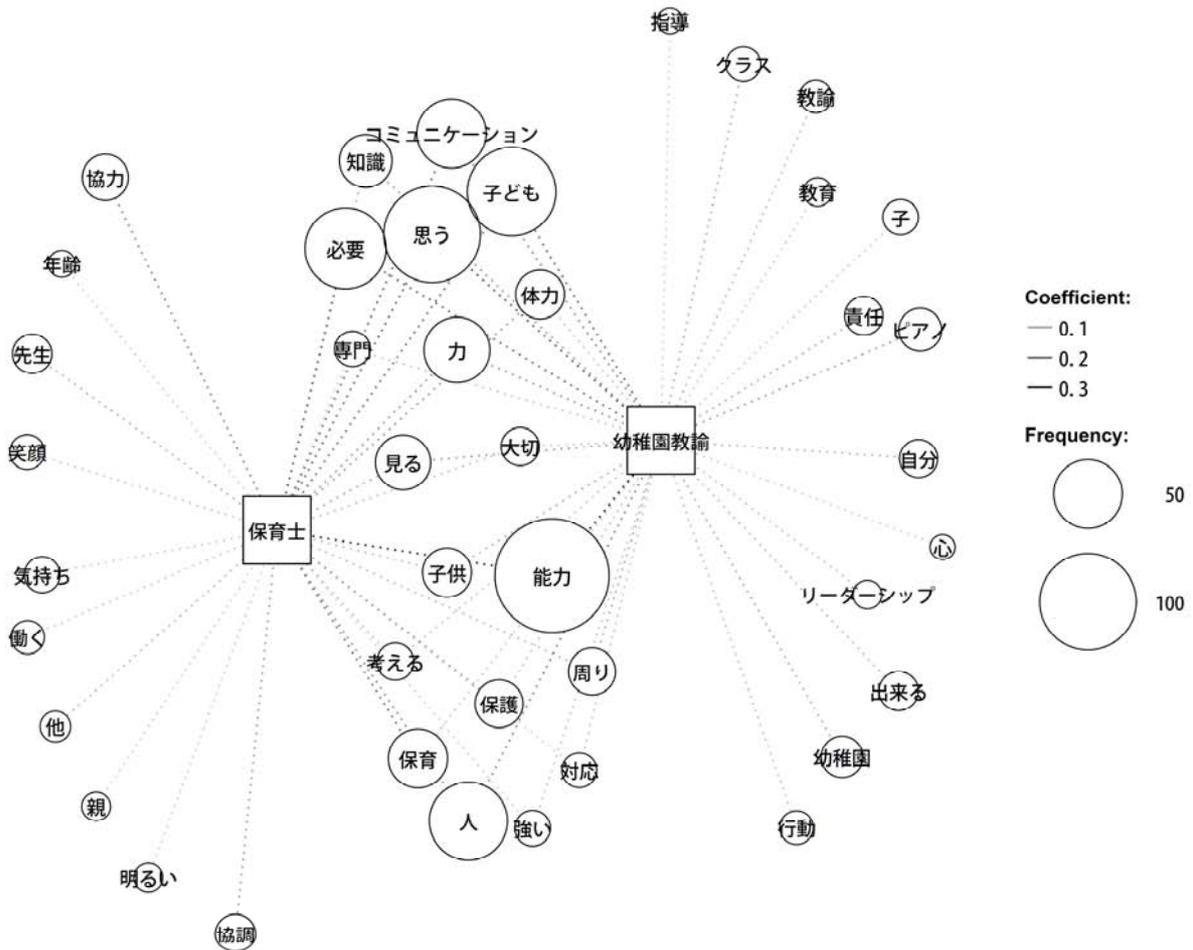


表 3.3 から、幼稚園教諭として必要な能力として、「子ども」、「知識」、「ピアノ」があることがわかる。頻出語をまとめた表 3.2 から、これらの言葉は出現回数が多いことがわかる。「子ども」は、自由記述では「子どもに勉強など正しい知識を教える能力がある人」、「子どもたちを楽しませる能力が必要だと思います。先生は子どもたちにとってアイドルでお手本なので先生が楽しそうじゃなければ子どもたちも楽しめないと思うので自分たちから楽しむことが大事だとおうので楽しむ能力は大事だと思います」、「子どもをまとめる力。要領よく 1 日の活動をすすめる能力」があった。「知識」は「専門的な知識とコミュニケーション能力」、「子どもについての知識やコミュニケーション能力」があった。「ピアノ」は「保育と教育はもちろんのこと、ピアノを弾くことや、教育に繋がるような、クラス活動ができるなどが最も重要なことだと思います」、「子どもを教育していくうえでピアノをやったりリトミックを行ったりさまざまな正しい教育を指導していく能力が必要」とあった。

新入学生は、幼稚園教諭に必要な能力として、子どもに関する専門的な知識やピアノ等の技術が必要であることは認識していることがわかる。もちろん、これらの知識や技術は幼稚園教諭に

必要な能力である。しかし、頻出語をまとめた表 3.2 から図 3 から、ピアノを除いて具体的な内容が出現していないということは、幼稚園教諭として具体的にどのような能力が必要であるかについては十分に認識されていないことを意味している。たとえば、子どもの育ちに即した指導計画を構想する力や子どもの発達を理解する力、地域の子育て関係者や行政機関との連携は幼稚園教諭として欠かせないが、こうした言葉やこれに関連する言葉は出現していなかった。幼稚園教諭にはコミュニケーション能力が必要であるということは漠然と理解していても、具体的に誰とコミュニケーションをとるといふ点はあまり認識されていないのである。この点は、表 3.1 や図 3 が示すように、保育士に対する結果も同様であった。

このような結果は、選択式の質問紙調査を行った先行研究とは異なる。先行研究では、保育者に必要な具体的な能力が列挙されており選択するようになっているため、そう考えていなくてもとりあえず選択するということが生じやすい。したがって、結果だけ見れば、幼稚園教諭に必要な具体的な能力について認識されていると思われがちである。しかし、この点について、高桑他（2010）は「保育者の資質として挙げられた、礼儀、社会人としてのコミュニケーション能力、意欲、研究心、責任感、計画立案、子ども理解、環境設定、基礎技能、文章能力、創造性、といった内容何れの重要性においても、短大生、幼稚園教諭双方から高い評定値が示された。しかし、回答動向の検討の結果、1年生は挙げられたすべての資質に一律に高評価をする傾向が見られ、保育者の資質をそれぞれ具体化して思考することが難しいということが示唆された」と指摘している。高桑の指摘や本研究による自由記述の分析から、新入学生にとっては、幼稚園教諭に必要な具体的な能力については十分に認識されておらず、漠然と捉えているに過ぎないことがわかる。

（４）幼稚園園長に必要な能力

「幼稚園の園長に必要な能力とは何だと思いますか」と「保育所の園長に必要な能力とは何だと思いますか」の分析結果を示したのが、表 4.1、表 4.2、表 4.3、図 4 である。

表 4.1 「保育園園長に必要な能力」の抽出語と出現回数

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
人	65	働く	7
保育	54	経営	6
思う	52	作る	6
能力	44	他	6
子ども	43	判断	6
考える	33	保育園	6
力	25	それぞれ	5
保護	24	過ごす	5
環境	20	広い	5
先生	20	行動	5
必要	19	事	5
全体	18	持つ	5
子供	16	状況	5
対応	13	心	5
園	12	整える	5
周り	12	専門	5
職員	11	相談	5
知識	11	良い	5
親	10		
園長	9		
幼稚園	9		
コミュニケーション	8		
意見	8		
見る	8		
出来る	8		
信頼	8		
年齢	8		
理解	8		
気持ち	7		
見れる	7		

表 4.2 「幼稚園園長に必要な能力」の抽出語と出現回数

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
人	72	周り	7
思う	51	専門	7
能力	49	クラス	6
考える	37	学ぶ	6
子ども	34	信頼	6
必要	27	心	6
保育	26	責任	6
先生	25	多い	6
力	24	聞く	6
園	21	理解	6
全体	21	事	5
保護	19	状況	5
幼稚園	18		
環境	17		
子供	17		
経営	15		
見る	12		
行事	12		
職員	12		
意見	11		
出来る	11		
知識	11		
大切	10		
良い	10		
対応	9		
コミュニケーション	8		
気持ち	8		
教育	8		
園長	7		
指導	7		

表 4.3 保育園／幼稚園園長に必要な能力」の特徴語

保育士		幼稚園教諭	
保育	. 217	人	. 233
思う	. 204	能力	. 213
子ども	. 187	考える	. 157
力	. 117	必要	. 126
保護	. 113	先生	. 112
環境	. 100	全体	. 101
対応	. 065	園	. 096
周り	. 061	子供	. 084
知識	. 059	経営	. 073
園長	. 050	幼稚園	. 071

析結果でもそうであったが、あるいはそれ以上に、新入学生にとっては幼稚園園長に必要な具体的な能力に対するイメージが描きにくいのではないだろうか。幼稚園であれ保育園であれ、園長が園全体をマネジメントするというのは組織上の役職から当然に導き出されることであり、幼稚園（保育園）の園長だからこそその役割は他にもあろう。幼稚園園長も保育園園長も、法令に対する知識や職員の研修計画の立案等は園長が身につけるべき力であるが、こうした記述は見られなかった。以上を踏まえると、授業や実習を通じて、幼稚園教諭の役割や業務内容に加えて、園長の役割や機能を学ぶことができるようにする工夫が必要となろう。園長の視点や立場から保育や教育を見ることは、個々の保育者の動きや保育に対する理解を深めることになるからである。

4 まとめと今後の課題

本稿では、保育者を目指す新入学生が幼稚園教諭をどのようなものと捉えているかを明らかにすることを目指してきた。分析の結果、次の2つのことがわかった。まず、幼稚園教諭は明るさや笑顔が必要であると同時に、一人で責任を負う（一人で責任をもって進める）仕事であるという認識であった。責任が強調されるのは、幼稚園に特有のクラス運営や担任制が背景にある。幼稚園教諭の向き不向きでも、クラス運営や担任について多く言及されていた。保育士に対しては連携、協力、協調という言葉が特徴的であったのに対して、幼稚園教諭では一人で責任を負うものと認識されていた点は特に注目すべきであろう。また、幼稚園教諭や幼稚園園長に必要な能力については漠然とした認識に留まっていた。コミュニケーション能力や園全体のマネジメント能力が必要という認識はされていたが、そのために具体的にどのような力が必要かについては記述されていなかった。

以上の分析結果を踏まえると、新入学生のもつ幼稚園教諭像は漠然としたものであることがわかる。先行研究の中には、入学時点やそれに近い時点での調査を通じて、学生は幼稚園教諭に必要な能力として具体的な能力を理解しているという結論のものもあるが、本研究ではそうした結論には至らなかった。むしろ、漠然とした幼稚園教諭像であった。すなわち、明るく、優しい、クラスを運営する先生というイメージである。具体的な資質や能力はほぼ認識されていなかったのである。

こうした相違が生じた背景は、先行研究では質問紙に事前に質問項目があるが、自由記述の場合はそうではないことがある。たとえば、吉村他（2007）の研究では、幼稚園教諭および保育士に必要な資質として、日誌や指導案の書き方、時間を遵守したり適切に配分したりするタイムマネジメント、ダンスなどの身体表現など、具体的な項目が多数列挙されている。しかし、自由記述では、日頃から意識したり認識したりしていないことは回答としてでてこないものである。高桑

他（2010）も「自分自身で保育活動をイメージし、そこで必要とされる資質を思い起こすというプロセスが必要とされるものである。つまり、自由記述回答が少ないということは、具体的に保育活動を考えるには至っていないということを表しているとも考えられる」と指摘している。だから、あらかじめ質問項目がある先行研究では学生は幼稚園教諭に必要な資質や能力をよく認識しているという結論になるのである。しかし、それは質問項目をよく考えた結果ではなく、列挙されている質問項目がすべて大事であるという漠然とした認識に過ぎないのである。自由記述において、幼稚園教諭に必要な資質や能力について具体的な記述が少ないということは、幼稚園教諭に求められる資質や能力を具体的に捉えていないということなのである。

このように、入学時点での幼稚園教諭像が漠然としたものであるとすれば、入学後早期に幼稚園教諭のあるべき姿や役割について具体的なイメージが描けるような教育的な働きかけを行う必要がある。なぜなら、多くの短期大学では1年次後期には幼稚園実習が始まることから、幼稚園教諭についてじっくり学ぶ時間は多くないからである。しかし、入学時点での幼稚園教諭像が漠然としたものであることから、幼稚園教諭のあるべき姿や役割、資質や能力について学び、専門職としての幼稚園教諭像を描けるようにする必要がある。学生が前提としている幼稚園教諭像が漠然した幼稚園教諭像か専門職としての幼稚園教諭像かによって、幼稚園教育実習での学びは大きく異なるからである。入学後早期の働きかけを行うことで、専門職としての幼稚園教諭像について考えを巡らせ、深化させることができるのである。

新しい幼稚園教諭養成課程では、「領域及び保育内容の指導法に関する科目」において、5領域を横断する科目や5領域の教育内容と指導方法を含めた科目を開設することができるようになった。各大学が目指す幼稚園教諭像に応じて教授する内容や方法が変わることから、柔軟な科目の開設が可能となった。いつ、どのような科目を開設することが専門職としての幼稚園教諭像を描くことにつながるのかを十分に検討することが必要である。こうした教職課程編成の工夫が、専門職としての幼稚園教諭を養成することにつながるのではないだろうか。

今後の課題として、幼稚園教諭像の変化の過程を分析することがある。入学時点では漠然としていた幼稚園教諭像がどのように変化していくのか、特に幼稚園実習前後でどのように変化するかについて分析をする必要がある。こうした変化の過程を明らかにすることは、養成校での授業や幼稚園実習のあり方を再検討し改善する方法を模索することにつながるからである。今後の課題として取り組んでいきたい。

引用・参考文献

- 1) 安部孝・石山貴章（2008）保育実践力の育成に関する考察1．埼玉純真短期大学研究論文集。

1. 3-8.
- 2) 安部孝・石山貴章 (2010) 保育実践力の育成に関する考察 2—「理想の保育者像」の獲得—。埼玉純真短期大学研究論文集。3. 1-10.
- 3) 江田美代子 (2008) 幼稚園教諭に求められる資質能力に関する調査研究。宮崎学園短期大学紀要。(1). 15-35.
- 4) 石川拓次・長澤貴 (2018) 保育士・幼稚園教諭実習生に求められる資質および技能についての一考察。鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部紀要人文科学・社会科学編。(1). 249-272.
- 5) 加藤由美 (2009) 保育者養成大学学生の幼稚園・保育所における記憶および希望する保育者像。九州保健福祉大学研究紀要。10. 121-126.
- 6) 小島千恵子 (2012)。保育者をめざす学生の「保育」の意識に関する研究—実習前後の自己意識の自覚の変化を中心に—。名古屋柳城短期大学。34. 157-167.
- 7) 厚生労働省 (2015) 第1回保育士養成課程等検討会 参考資料1 保育士試験・養成課程関係資料。
- 8) 小山優子 (2016) 倉橋惣三の保育者・教師論—幼稚園教諭と小学校教諭に求められる資質・能力の観点から—。島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要。(55). 31-40.
- 9) 教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会 (2017) 教職課程コアカリキュラム。
- 10) 松永しのぶ・坪井寿子・田中奈緒子・伊藤嘉奈子 (2002) 保育実習が学生の子ども観、保育士観におよぼす影響。鎌倉女子大学紀要。9. 23-33.
- 11) 文部科学省 (2016) 幼児教育部会における審議の取りまとめ。
- 12) 文部科学省 (2018) 幼稚園教育要領。
- 13) 中村勝美 (2006) 保育学生の保育者像と保育者養成教育に関する一考察。永原学園西九州大学・佐賀短期大学紀要。36. 139-146.
- 14) 大橋伸次 (2010) 保育学生の理想的保育者像について。国際学院埼玉短期大学研究紀要。(31). 37-42.
- 15) 太田賀月恵 (2008) 保育実習における「学び」と「気づき」による保育士像の形成—保育科学生の学び・気づきの原点、将来像、目指す保育士像—。環太平洋大学研究紀要。1. 95-101.
- 16) 竹田恵・鈴木晶子・宮有佳里・近澤友理 (2016) 保育実習指導に関する一考察—保育者に対するイメージの変化に着目して—。鶴川女子短期大学研究紀要。34. 115-120.
- 17) 高桑秀郎・濱田尚吾・太田裕子・花田嘉雄 (2010) 短大生が考える「保育者に求められる資質」に関する意識についての検討—現職幼稚園教諭の意識との比較から—。羽陽学園短期大学紀要。8(4). 61-68.
- 18) 高村和代・平野朋枝 (2008)。学外実習を含む学習を通じた「目指す保育者像」の変容。岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要。40. 29-36.
- 19) 山本弥栄子・小川友恵・柴本枝美 (2010) 教育実習指導のあり方 (2) —「めざす保育者像」

に関する考察一. 大阪健康福祉短期大学紀要. 9. 103-113.

- 20) 山根文男・古市裕一・木多功彦 (2010) 理想の教師像についての調査研究 (1) —大学生の考える理想の教師像—. 岡山大学教育実践総合センター紀要. 10(1). 63-70.
- 21) 柳本哲 (2008). 教員の資質についての一考察—文献調査の中から—. 教育総合研究叢書. 1. 17-24.
- 22) 吉村英・片岡基明・吉村啓子 (2007) 保育者の資質に対する女子学生の意識—幼稚園教諭資質と保育士資質の比較—. 京都女子大学発達教育学部紀要. 3. 43-58.
- 23) 幸順子 (2009) 保育士をめざす短大生がえがく「保育所・施設の子ども像」と「保育士像」(第1報). 名古屋女子大学紀要人文・社会編. 55. 173-181.